

【4 唐津市 Karatsu City】



天山の山頂から(佐賀平野越しに)

唐津市では、空気がよく澄んだ日には、市の南東側に連なる筑紫山地の八幡岳や女山(多久市では船山)、作礼山や天山から、佐賀平野・有明海越しに“[北面の雲仙岳](#)”が眺望できます。

八幡岳と女山は、八幡岳県立自然公園に指定されていて、特に八幡岳からの展望は良好で、南方には有明海越しの[雲仙岳](#)が、北方には玄界灘の島々が見渡せます。

天山県立自然公園に指定されている作礼山と天山は、八幡岳と同様に、山頂部の展望所から東西南北の展望が楽しめます。特に空気が澄んだ日には、両山から[阿蘇山](#)も眺望でき、[阿蘇山](#)と[雲仙岳](#)の間の歴史的な[太三角形](#)(※阿蘇地域のページ参照)を視覚的にイメージすることも可能です。実はこの天山山頂には、阿蘇神社の大宮司家の阿蘇惟直のお墓が建っています。中世の室町時代前夜、後醍醐天皇に反旗を翻した足利尊氏は、新田義貞・楠木正成らに敗れて九州へ一旦逃避しましたが、これを迎え討ったのが肥後の菊池氏や阿蘇惟直らの官方軍でした。官方軍は多々良浜(現・福岡市)で足利軍を迎え討ったものの敗れ、阿蘇惟直は天山山中に敗走しましたが、小城領主の千葉氏に追撃されて負傷し、自害しました。本人の“[阿蘇山](#)の煙が見えるところに葬ってほしい”との遺言に従って、天山山頂に葬られたと伝えられています。

陶磁器と言えば、西日本では“からつもの”とも呼ばれ、唐津焼をはじめとする陶磁器の歴史がありますが、その唐津焼の源流をつくったのが、中世の唐津領主・波多(はた)氏と言われています。波多氏は、西九州の有名な水軍・上松浦党の主要一族でしたが、戦国時代には領地安泰のため、[雲仙岳そびえる島原半島](#)の領主・有馬氏から養子(有馬晴信の兄弟・藤堂丸)をもらって第17代当主(波多親)としたとされています。その後、強大な勢力を誇る佐賀領主・龍造寺氏に従いましたが、龍造寺氏が島原半島へ遠征する際には、血縁に配慮して参加しなかったと言います。

波多氏が豊臣秀吉によって所領を没収された後、代わって入った寺沢氏は、関ヶ原の戦いの後に肥後の天草領も与えられ、唐津藩は[雲仙岳](#)を南北にまたいで約12万石となりました。しかし、藩主による天草のキリスト教徒への厳しい弾圧や過酷な徴税によって領民の不満が高まって行き、有名な“島原・天草一揆”へと突き進みました。唐津藩が築いた富岡城は、天草諸島側における一揆の激戦地となり、対岸の[雲仙岳南麓](#)の原城と共に当時の状況をしのばせる史跡となっています。

[雲仙岳](#)の様々な表情を探しながら、唐津市内を旅してみませんか？

●唐津市の観光情報はこちら ⇒ 唐津観光協会 <http://www.karatsu-kankou.jp/>



天山の山頂から(拡大)



天草の富岡城跡から